

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：学術フォーラム コロナ禍を共に生きる #3「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか～国際連携の必然性と可能性～」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

- ・主催：日本学術会議
- ・共催：パンデミックと社会に関する連絡会議

3 開催日時：令和3年10月23日（土）13時30分～17時

4 開催場所：オンライン

5 開催趣旨：

国境を超えて進展するグローバル化により、瞬く間に世界に広がった新型コロナウイルス。そうであれば、パンデミックの収束（終息）には国境を超える連携が不可欠です。本フォーラムでは、ワクチンや治療薬の共同開発、新たな知見・情報の収集や共有、格差や差別の解消にむけた政治や支援の取組みについて、多様な領域の現状や課題を明らかにし、パンデミックの収束（終息）にむけた国際連携の可能性を考えます。

6 参加人数：

講演者等：7名

その他の参加者：最大同時視聴者数75（視聴回数：251）

7 特記事項：

分野・領域横断的なテーマ設定を目指して立案したが、広報展開を特定の学協会に期待できず、本シリーズの他フォーラムに比して参加人数が少なかった。また、発題者の専門領域が異なるため、議論を深めることが難しかった。今後、同種の企画で開催する際は、総合討論を設ける等の工夫が必要であろう。